

分 野 (2) 気管支ぜん息・COPD患者の健康回復に関する調査研究

研 究 課 題 名 : 客観的指標によるぜん息コントロール状態の評価

申 請 課 題 名 : 小児ぜん息の病態とコントロール状態を反映する新しい客観的評価
手法確立に関する研究

調査研究代表者氏名: 藤 澤 隆 夫

評価コメント

- ・モストグラフについての小児基準値の設定をさらに簡易化するための小児喘息モストグラフ係数を作成したことは評価できる。
- ・モストグラフを使って、喘息患者の呼吸インピーダンスを測定し、その面から喘息の病態との関係をいろいろ解析したことは評価できる。
- ・モストグラフの有用性について検討されている。
- ・詳細な統計学的条件設定の下で“小児喘息モストグラフ係数”を考案し新しい客観的指標として確立した。
- ・小児の喘息のコントロール状態の指標としてFOTの小児の基準値予測式を作成しこれが重症度の客観的評価に応用できることを確認できたことは評価できる。
- ・強制オッシレーション法を小児喘息の長期管理の新たな指標に導入するため、小児の基準値予測式を作成し、活用できるようにした点が評価される。
- ・FOTで得られたパラメーターを組み合わせモストグラフ係数を算出し、喘息の診断に応用しようとする試みも興味あるテーマである。
- ・従来も用いられてきたモストグラフの小児正常値を検討した。
- ・治療反応性の検討によりテイラーメイドの治療法選択も可能性が出てきている。
- ・症例を増して検討する必要があるかと思うが、課題の目標はほぼ達成されたと考えてよいのではなかろうか。
- ・小児喘息のコントロール状態の客観的評価手法としてモストグラフ係数という新しい概念を提唱しているが、コントロール良好群、比較的良好群、不良群との判別が可能ということであるが、グラフ上では、平均値としては、有意な差があるが、個々の患者では、かなりのオーバーラップがあり、この係数のみでは、個別患者のコントロール状態および重症度を判別することは困難と思われる。
- ・今後はスパイログラムとの相違点、優位性を評価することが重要と思われる。
- ・フローボリュームカーブとモストグラフの健診での有用性についても検討してもらいたい。
- ・ソフト3事業にどのように生かすかを検討してもらいたい。
- ・専門医療機関と一般医療機関のネットワークでこの手法を活用できるようにすることが次の課題であろう。